

2013年 1月 1日から **第138期**
2013年 6月30日まで

中間報告書



ブルースクワン
BluEarth-1
EF20

株主の皆様へ

厳しい市場環境の中、前年同期並みの収益を確保
通期では過去最高の売上高、利益を目指す

特集

ヨコハマが取り組む低燃費タイヤの拡充

トピックス



- 北米にトラック・バス用タイヤ工場を新設
- 49インチのORラジアルタイヤを正式発売
- 乾燥時間を最大1/6に短縮する
新型プライマーを開発
- “飛び”を追求する「egg」を全面リニューアル
- 空気漏れを約30%抑制する
商用車用新インナーライナー技術を開発

厳しい市場環境の中、 前年同期並みの収益を確保 通期では過去最高の 売上高、利益を目指す

売上高、利益は前年同期並みを確保

当中間期の世界経済は、米国は緩やかな回復傾向で推移したものの、欧州や中国の景気は低迷しました。特に当社の主力事業であるタイヤの需要は国内外で減少し、厳しい価格競争が続きました。こうした中、当社の中間連結決算は、売上高が前年同期比0.3%増の2,697億円、営業利益が同4.2%減の191億円、経常利益が同7.7%増の206億円、純利益が同5.3%減の130億円とほぼ前年同期並みを確保することができました。アベノミクス効果による円安や原材料価格の下落が収益を押し上げました。なお、配当については一株当たり10円といたします。

通期は売上高、利益共に過去最高となる見通し

2013年度通期の見通しは、売上高が前期比9.0%増の6,100億円、営業利益が同18.7%増の590億円、経常利益が同6.9%増の560億円、当期純利益が同10.4%増の360億円です。2012年度に引き続き、過去最高の売上高、利益を計画しています。期末配当



代表取締役会長兼CEO
南雲 忠信

代表取締役社長
野地 彦旬

は一株当たり12円を予定しており、年間では同22円を計画しています。

中期経営計画「GD100」PhaseⅢ

当社は2006年度から中期経営計画「GD100（グランドデザイン100）」に取り組んでいます。「GD100」では創業100周年にあたる2017年度に売上高1兆円、営業利益1,000億円の達成を目指しています。3か年を1フェーズと区切り、現在はPhaseⅢ（2012～2014年度）に取り組んでいます。PhaseⅢでは「強くしなやかな成長」というテーマの下、3年間合計で売上高1兆8,000億円、営業利益1,500億円、営業利益率8.3%の達成を掲げています。PhaseⅢのタイヤ・MB事業の成長戦略とその主な成果をご紹介します。

3年間でタイヤ年間生産能力を735万本増強

タイヤ事業では「大規模なタイヤ供給能力の増強」を成長戦略のひとつに据えています。フィリピンやロシアのタイヤ工場拡張やインドでの新工場建設などにより、年間生産能力をPhaseⅢ期間中に735万本増強し、2014年度には総計6,674万本とする計画です。さらに、PhaseⅣ(2015～2017年度)での成長に向け、北米にトラック・バス用タイヤ工場を新設することを決定しました。2015年10月から年間生産能力100万本で操業開始する予定です。もうひとつの成長戦略「高付加価値商品のグローバル展開」では、グローバルフラッグシップブランド「ADVAN」や低燃費タイヤブランド「BluEarth」の他、スタンダード低燃費タイヤ「ECOS ES31」など5つの新商品を意欲的に投入しました。また、北米でのタイヤ販売力を強化するため、代表取締役社長の野地が現地タイヤ生産販売会社ヨコハマタイヤ・コーポレーションのCEOを兼務することを決定したほか、4月にメキシコにタイヤ販売会社を設立しました。

自動車用ホースの現地生産を拡大

MB事業は成長戦略のひとつに「3つのコア技術で新たなナンバーワン商品を目指す」を掲げています。特に米国で自動車用ホースの販売が好調なことから、2014年夏からメキシコで自動車のエアコン用ホースを委託生産することを決定しました。また、7月に開所式を行ったシンガポールの工業品販売会社は、順調な滑り出しをみせています。

ゴルフ事業では、PRGRが今年で30周年を迎えました。現在、「iD nabra」と「egg」の2ブランド商品

を展開しており、「iD nabra」では4月に発売したエグゼクティブシニア向けドライバー「iD nabra RED」が好調です。また、9月に上級者向けモデルを2種発売します。一方、「egg」も全面リニューアルしたドライバーやアイアンなどを9月に発売する予定です。

基盤強化・CSRの取り組み

基盤強化では、国内物流体制の効率化を図り、東北エリアの複数の物流拠点を一本化する仙台物流センターを新設し、本年末に稼働させます。なお、2014年秋には愛知県新城市にも物流センターを建設する予定です。また、経験豊かな人材の活用を目指し、定年退職した当社社員が70歳まで正社員として働ける「ヨコハマビジネスアソシエーション(株)」を4月に設立しました。

CSRの取り組みでは、今年5月、岩手県大槌町で2期目の植樹会を開催しました。震災がれきを利用して「いのちを守る森の防潮堤」を作るための植樹で、2017年まで毎年継続して開催する計画です。

横浜ゴムグループは、「GD100」PhaseⅢで掲げる「強くしなやかな成長」の実現に向け、各施策に取り組んでまいります。株主の皆様におかれましては、さらなるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2013年8月

代表取締役会長兼CEO

代表取締役社長

南雲忠信 野地彦旬

連結の業績概況

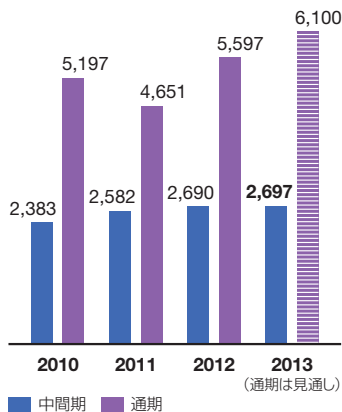
● 経営成績

当中間期の連結決算は、売上高が前年同期比0.3%増の2,697億円、営業利益が同4.2%減の191億円、純利益が同5.3%減の130億円となりました。経営環境面における当中間期の特色は、アベノミクスにより為替相場が対ドル、対ユーロ共に大幅安で推移したこ

とです。当社のタイヤ及びMB事業は、共に海外売上高比率を高めていることから、円安効果が売上高、営業利益、営業外収益など全般に渡ってプラス要因となりました。

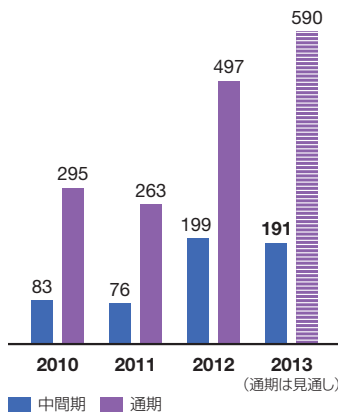
売上高

(年度/億円)



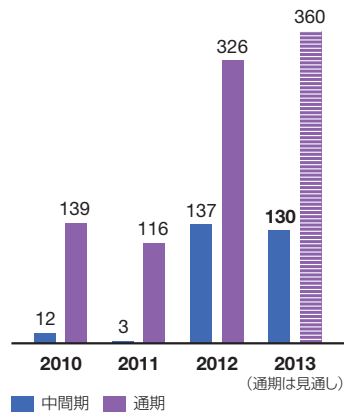
営業利益

(年度/億円)



純利益

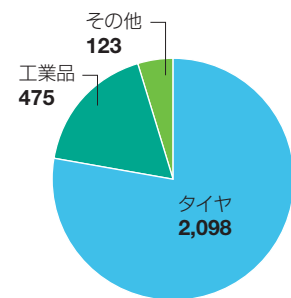
(年度/億円)



(注) 2011年度は9ヶ月決算となります。

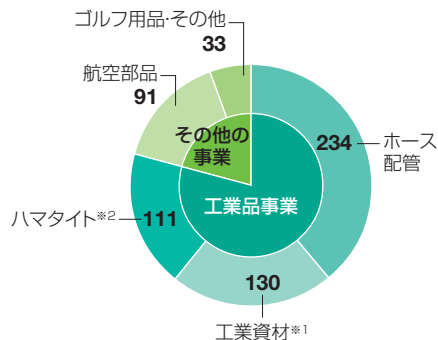
事業別売上高内訳

(億円)



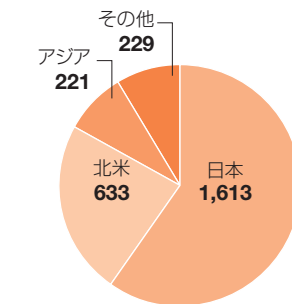
工業品及びその他の事業売上高内訳

(億円)



所在地別売上高

(億円)



*1 工業資材：コンベヤベルト、ゴム支承、マリンホース、防舷材など

*2 ハマトイト：接着剤、シーリング材、コーティング材など

● 事業別

タイヤ事業

売上高 **2,098**億円 営業利益 **139**億円

タイヤ事業の売上高は、前年同期比0.6%減の2,098億円、営業利益は同17.9%減の139億円となりました。国内新車用はエコカー補助金の終了、カーメーカーの現地生産化等により低調に推移しました。国内市販用も厳しい環境が続きましたが、低燃費タイヤ「BluEarth」シリーズやスタンダード低燃費タイヤ

「ECOS ES31」の販売が順調だったほか、トラック・バス用低燃費タイヤ「ZEN」シリーズも大きく販売を伸ばしました。一方、海外は欧州や中国の需要回復が進まず、米国での販売も伸び悩みました。さらに、世界各地で価格競争が進むなど厳しい環境が続きました。

MB 工業品事業

売上高 **475**億円 営業利益 **36**億円

工業品事業(ホース配管、シーリング材、コンベヤベルト、ゴム支承、マリンホース、防舷材など)の売上高は、前年同期比3.4%増の475億円、営業利益は同57.4%増の36億円となりました。ホース配管は、特に北米で自動車向けが好調でした。工業資材は、マリ

ンホースや防舷材が好調だったほか、コンベヤベルトも堅調でした。ハマタイトは、建築用・自動車用接着剤や携帯電話用コーティング材が市場低迷の影響を受け、低調に推移しました。

MB その他の事業

売上高 **123**億円 営業利益 **16**億円

その他の事業(航空部品、ゴルフ用品など)の売上高は、前年同期比3.7%増の123億円、営業利益は同126.1%増の16億円となりました。航空部品は、需要の回復に加え円安効果で好調に推移しました。

ゴルフ用品は、4月に発売したエグゼクティブシニア向けの「iD nabra RED」が好調でしたが、その他の商品の販売が低迷しました。

(注) MBはマルチプル・ビジネスの略で、「多角化し、拡大する事業」という意味。

「株主・投資家の皆様へ」サイトのご案内

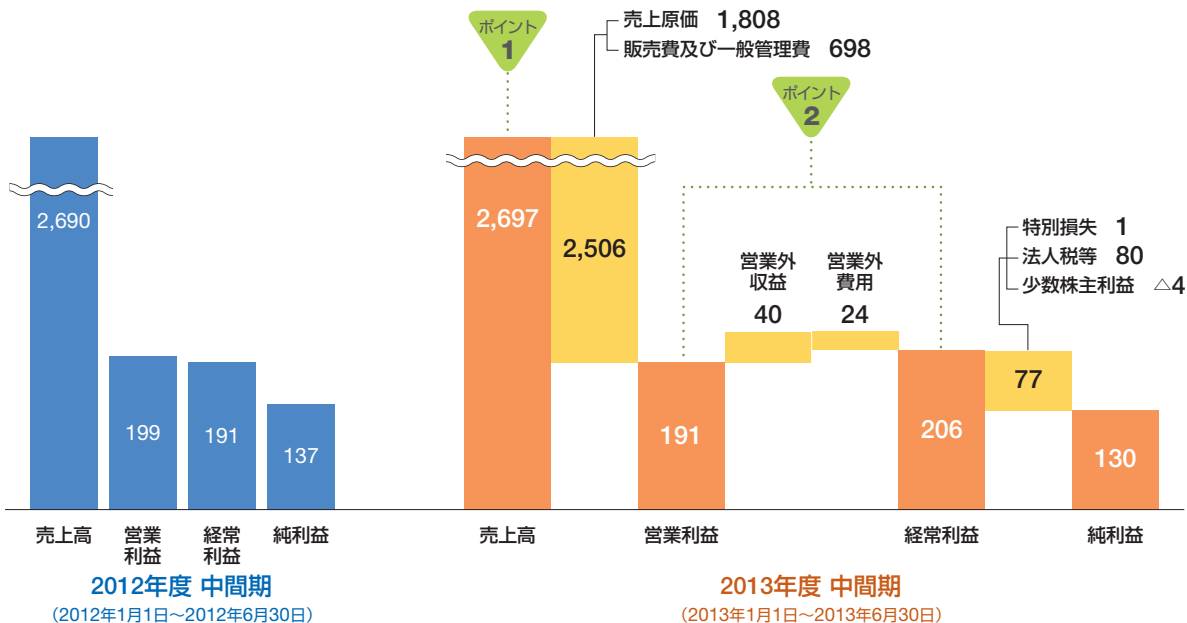
当社の「株主・投資家の皆様へ」サイトでは、最新の会社情報やIR資料などを掲載しています。特に「決算説明会」ページでは、業績・財務情報についてより分かりやすくご紹介するため、決算説明会のプレゼンテーション資料とその詳細な説明を掲載しています。ぜひご利用下さい。

URL : <http://www.yrc-pressroom.jp/ir/index.shtml>



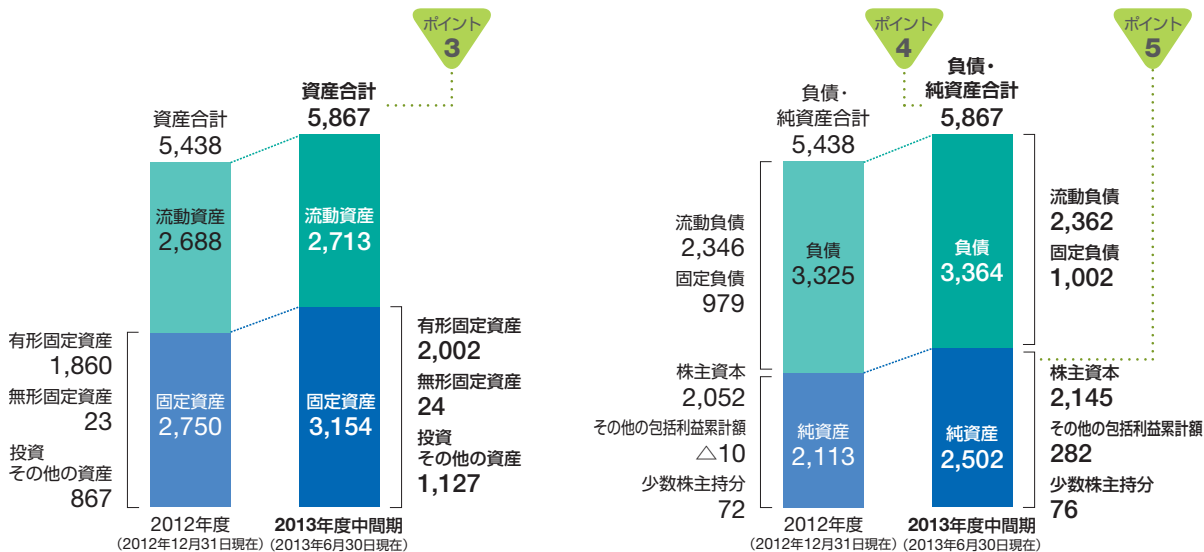
● 連結損益計算書の概要

(単位：億円)



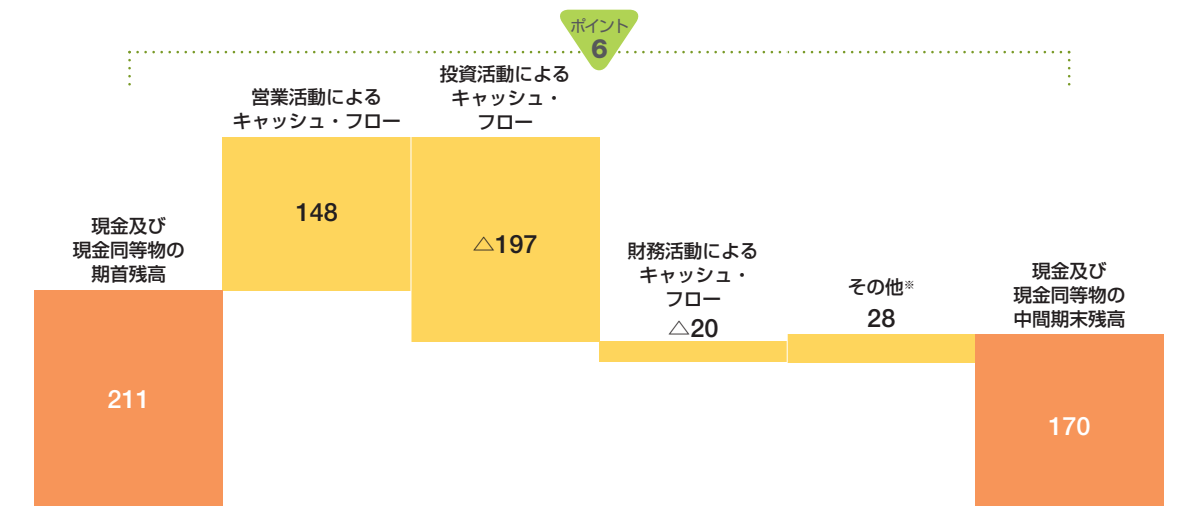
● 連結貸借対照表の概要

(単位：億円)



● 連結キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位：億円)



2013年度 中間期
(2013年1月1日～2013年6月30日)

* 現金及び現金同等物に係る換算差額や連結範囲変更に伴う影響額

ポイント 1 売上高

タイヤ事業は減収となりましたが、工業品・その他の事業が堅調に推移したことにより、売上高はほぼ前年同期並みの2,697億円となりました。

ポイント 2 営業利益・経常利益

円安、原材料安などプラス要因があったものの、販売量減や販売価格の下落などで営業利益は前年同期比4.2%減となりました。しかし、経常利益は円安により営業外為替差益が増加したため、同7.7%増となりました。

ポイント 3 資産

総資産は5,867億円となり、前期末比428億円増加しました。スノータイヤの早期生産による棚卸資産の増加、保有株式の時価評価額の増加と円安の影響が主因です。

ポイント 4 負債

負債合計は3,364億円となり、前期末比39億円増加しました。未払法人税等は減少したものの、保有株式時価評価にかかわる繰延税金負債の増加、為替による影響を含めた有利子負債の増加が主因です。

ポイント 5 純資産

純資産は2,502億円となり、前期末比389億円増加しました。純利益の計上に加え、投資有価証券の評価差額などを含むその他の包括利益累計額が株価上昇、円安で増加したためです。

ポイント 6 連結キャッシュ・フロー計算書

営業活動により得た資金は148億円となりました。法人税等の支払いによる支出がありましたが、税金等調整前四半期純利益の計上に加え、スノータイヤの売上債権の回収による収入などがありました。一方、投資活動に支出した資金は設備投資による有形固定資産の取得などで197億円となりました。この結果、フリーキャッシュ・フロー*は49億円のマイナスとなりました。財務活動によるキャッシュ・フローは、主に配当金の支払いなどにより20億円の支出となりました。

*フリーキャッシュ・フロー＝営業活動により得た資金－投資活動に支出した資金

ヨコハマが取り組む低燃費タイヤの拡充



ユーザーニーズが高まり続ける低燃費タイヤ市場において「ヨコハマ」の存在感を確固たるものとするため、乗用車用低燃費タイヤブランド「BluEarth」を中心とする低燃費タイヤの開発に力を入れています。2013年度上期はフラッグシップタイヤからポリウムゾーン向けタイヤまで3商品を発売しました。

低燃費タイヤの最高グレードを獲得したフラッグシップタイヤ

「BluEarth-1 EF20」(ラベリング：AAA/a)

NEW

7月に発売した「BluEarth-1 EF20 (ブルーアース・ワン・イーエフ・ニーマル)」は当社の低燃費タイヤにおけるフラッグシップモデルです。従来のフラッグシップタイヤ「BluEarth-1 AAA(ブルーアース・ワン・トリプルエースペック)」の優れた

低燃費性能はそのままに、ウェットグリップ性能を大幅に高めました。これにより国内タイヤラベリング制度で最高グレードの転がり抵抗性能「AAA」、ウェットグリップ性能「a」を獲得し、当社の高い技術力を示すシンボル商品となっています。



ブルーアース
BluEarth-1
EF20

先進タイヤ技術「ブルーアーステクノロジー」を結集

当社独自のコンパウンド技術「ナノブレンドゴム」を始め、空気抵抗を低減する「エアロダイナミクス技術」、空気漏れを抑制する「AIRTEX Advanced liner (エアテックス アドバンスド・ライナー)」など先進タイヤ技術「ブルーアーステクノロジー」を結集しています。また、ロードノイズを低減する「サイレントリング」も搭載。優れた低燃費性能や安全性に加え、高レベルでの快適性や静粛性を実現しています。



エアロダイナミクス技術から生まれた「ディンプルサイドデザイン」と「フラットロゴデザイン」



従来の1/5の薄さで優れた空気漏れ抑制効果を発揮する「AIRTEX Advanced liner」

ラベリング制度



日本自動車タイヤ協会が交換用タイヤを対象に2010年1月から施行した制度。転がり抵抗性能とウェットグリップ性能をグレーディングシステム(等級制度)に

基づいて表示しており、転がり抵抗性能はAAA～A、ウェットグリップ性能はa～dの範囲内にあるタイヤを「低燃費タイヤ」と定義しています。

「BluEarth」の主力商品

「BluEarth-A」をリニューアル (ラベリング：A/a)

2012年2月に発売した「BluEarth-A (ブルーアース・エース)」は「BluEarth」の中で最も豊富なサイズバリエーションを有し、コンパクトカーから大型セダンまで対応する主力商品です。燃費と安全性

のさらなる向上を目指してリニューアルし、転がり抵抗性能「A」、ウェットグリップ性能「a」となりました。7月から販売を開始しています。



BluEarth-A
ブルーアース

ボリュームゾーン向けスタンダード低燃費タイヤ

「ECOS ES31」 (ラベリング：A/c)

スタンダード低燃費タイヤ「ECOS ES31 (エコス・イーエスサンイチ)」を3月に発売しました。累計販売本数3,420万本以上 (2013年4月末現在) を誇る人気商品「DNA ECOS (ディーエヌエー・エコス)」

を低燃費タイヤへと進化させたモデルで、ボリュームゾーン向け商品として展開しています。転がり抵抗性能「A」、ウェットグリップ性能「c」に等級づけされています。



NEW

ECOS ES31

ヨコハマの低燃費タイヤラインナップ

「BluEarth-1 EF20」「BluEarth-A」「ECOS ES31」に加え、「BluEarth AE-01 (ブルーアース・エーイーゼロワン)」「BluEarth RV-01 (ブルーアース・アールバイゼロワン)」を販売しています。

「BluEarth」のスタンダードタイヤ

BluEarth AE-01 (ラベリング：AA/c)

2010年7月発売

BluEarth
ブルーアース AE-01



ミニバン専用プレミアムタイヤ

BluEarth RV-01 (ラベリング：A/b)

2011年2月発売

BluEarth
ブルーアース RV-01



話題のエコカーやプレミアムカーへ「BluEarth」シリーズが続々と新車装着

富士重工業(株)の「スバル」で初となるハイブリッドカー「SUBARU XV HYBRID」やガソリン車トップクラスの低燃費を実現した「スバル プレオ プラス」に、「BluEarth」が新車装着されました。また、高い燃費性能を持つハイブリッドモデルもラインナップする高級車ブランド「LEXUS」の新型スポーツセダン「IS」にも「BluEarth」が採用されています。



LEXUS IS



SUBARU XV HYBRID

北米にトラック・バス用タイヤ工場を新設

米国ミシシッピ州にトラック・バス(TB)用タイヤ工場を新設するため、4月29日、ミシシッピ州と合意書に調印しました。年間生産能力は100万本、初期設備投資額は3億米ドル、本年9月に着工し2015年10月の生産開始を予定しています。新工場建設により米国における横浜ゴムグループのタイヤ生産拠点は計3つとなります。



覚書調印式の模様。野地彦旬社長(左から2人目)とフィル・ブライアントミシシッピ州知事(左端)

49インチのORラジアルタイヤを正式発売

6月、建設・鉱山用リジッドダンプトラックに使用するラジアルタイヤ「RB42」の49インチサイズを正式発売しました。49インチの大型OR(建設車両用)ラジアルタイヤは世界でも生産できるタイヤメーカーが限られており、横浜ゴムが優位性を持つ高付加価値商品のひとつです。世界的な鉱物資源の生産増加に伴い、今後の高い需要が期待されます。



「RB42」

乾燥時間を最大1/6に短縮する 新型プライマーを開発

プラスチック製品向け真空蒸着用コート材「Y-coat」シリーズの新商品としてプライマー「TP515」を3月に発売しました。下地処理剤である同製品は、プラスチック樹脂と塗料の密着性を高めるほか、素材表面を平らにする役割を果たします。速乾性に優れるのが特長で乾燥時間を最大で従来品の1/6に短縮できるため、作業時間や乾燥に必要な熱使用量の削減に貢献します。

“飛び”を追求する「egg」を全面リニューアル

PRGR(プロギア)は、「egg(エッグ)」の新商品として、全面リニューアルしたクラブ4種を9月から順次発売します。

“飛びの追求”が特長の同ブランドは今回さらなる飛距離向上を目指し、ドライバーはクラブの長さをPRGR最長となる47インチにしたほか、長尺でも振り切れるよう軽量



「NEW eggbird DRIVER」

ヘッドや“しなる”シャフトを採用しました。また、フェアウェイウッドやアイアン、ユーティリティはボールの初速アップを狙い、高反発エリアを拡大しています。

空気漏れを約30%抑制する 商用車用新インナーライナー技術を開発

トラック・バスなど商用車用タイヤの空気漏れを従来に比べ約30%抑制する新インナーライナー技術を開発しました。インナーライナーはチュープレスタイヤの内面を覆うゴムシートで、タイヤの空気漏れを抑制します。今回、タルクという鉱物を板形状のまま微粒子化した「偏平タルク」をゴムに配合することで、空気の透過をさらに抑えることに成功しました。これにより、タイヤの空気圧保持能力の向上や軽量化が図れます。「偏平タルク」の顕微鏡写真(1万倍)



「偏平タルク」の顕微鏡写真(1万倍)

震災支援活動 岩手県大槌町で2期目の植樹会を開催

5月18日、東日本大震災の被災地である岩手県上閉伊郡大槌町の復興を支援するため、「平成の杜」植樹会を開催しました。当日は大槌町住民の皆様160名に加え、当社から南雲忠信会長兼CEO、野地彦旬社長、従業員ボランティアなど計245名が参加し、地元の皆様を含め総勢553名がおよそ5,000本の苗木を植樹しました。

大槌町は復興計画のひとつに海岸沿いに森を育成する「いのちを守る森の防潮堤」づくりを掲げ、植樹マウンドに震災で発生したがれきを活用しています。当社はこの活動に賛同し昨年4月30日にそのモデルケースとなる

「千年の杜」植樹会を実施しており、今回は2期目の植樹となります。1期目に植樹した50メートルのマウンドの隣に今回新たに長さ250メートルの植樹マウンドを建設し、そのうち50メートルに植樹しました。2017年まで毎年50メートルずつ植樹していく計画です。なお、植樹会名は、平成に起きた大震災を忘れないものとするため、昨年の「千年の杜」から「平成の杜」に改名されました。



開会式の様子

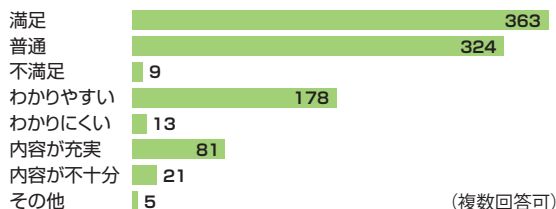


植樹する参加者の方々

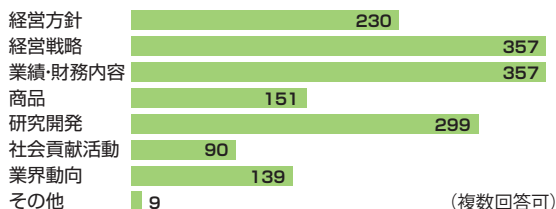
株主アンケート結果報告 ● アンケートへのご協力ありがとうございました。

第137期期末報告書でアンケートを実施し815枚(回収率5.5%)のご回答をいただきました。集計結果の一部をご報告します。

今回の期末報告書をどのように評価されますか?



今後、どのような情報の充実を望まれますか?



お送りいただいた貴重なご意見は今後の中間・期末報告書やIR活動などに活かしてまいります。

役員

取締役及び監査役		
代表取締役会長兼CEO	南 雲 忠 信	
代表取締役社長	野 地 彦 旬	
取締役副社長	小 林 達 達	
取締役 専務執行役員	後 藤 祐 次	
取締役 常務執行役員	川 上 欽 也	
取締役 常務執行役員	大 石 貴 夫	
取締役 常務執行役員	森 田 史 夫	
取締役 執行役員	桂 川 秀 人	
取締役 執行役員	久 世 哲 也	
社外取締役	岡 田 秀 一	
常任監査役	福 井 隆 隆	
常勤監査役	大 尾 雅 義	
社外監査役	古 河 直 純	
社外監査役	佐 藤 美 樹	
社外監査役	梶 谷 剛 剛	

執行役員(取締役兼務者を除く)		
専務執行役員	田 中 孝 一	
常務執行役員	高 岡 洋 彦	
常務執行役員	田 中 靖 靖	
常務執行役員	小 松 滋 夫	
常務執行役員	西 田 敏 行	
常務執行役員	伏 見 隆 晴	
執行役員	鈴 木 忠 忠	
執行役員	挾 間 浩 久	
執行役員	菊 也 也 志	
執行役員	中 澤 和 也	
執行役員	岸 温 雄 雄	
執行役員	中 野 茂 茂	
執行役員	近 藤 成 俊	
執行役員	鶴 野 孝 一	

大株主 (2013年6月30日現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本ゼオン株式会社	29,307	8.5
朝日生命保険相互会社	27,260	7.9
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	20,101	5.8
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	18,433	5.3
古河電気工業株式会社	7,571	2.2

※当社は自己株式を19,417千株保有しておりますが、上記の大株主からは除外しております。

株式分布状況 (2013年6月30日現在)

所有者区分	株主数(名)	株式数(千株)	株式数比率(%)
個人・その他	13,119	33,869	9.9
金融機関	88	143,422	41.9
その他国内法人	260	66,347	19.3
外国人	330	68,535	20.0
証券会社	61	11,008	3.2
自己株式	1	19,417	5.7
合計	13,859	342,598	100.0

株主メモ

決算期	12月31日
定時株主総会	3月開催
株主名簿管理人 特別口座管理機関	東京都千代田区丸の内1丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 及び電話照会先	〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 TEL: 0120-782-031 (フリーダイヤル)
基準日	12月31日、その他必要により取締役会で決議し、あらかじめ公告します。
配当金受領株主確定日	12月31日及び中間配当を行うときは6月30日
公告方法	電子公告

株式事務手続きのお問い合わせ先

- お取引の証券会社の口座に記録された株式についての住所変更、名義変更、単元未満株式の買取・買増請求、配当金受け取り方法の指定など



お取引口座を開設されている証券会社

- 郵便物等の遅配、未受領の配当金に関する照会
- 特別口座に記録された株式についての一般口座への振替請求、住所変更、名義変更、単元未満株式の買取・買増請求、配当金受け取り方法の指定など



株主名簿管理人・特別口座管理機関
三井住友信託銀行株式会社

横浜ゴム株式会社 〒105-8685 東京都港区新橋5丁目36番11号 TEL (03) 5400-4500 <http://www.yrc.co.jp/> (作成元：総務部)

〈表紙タイヤ写真〉今年7月発売の乗用車用低燃費タイヤ「BluEarth-1 EF20 (ブルーアース・ワン・イーエフ・ニーマル)」。

環境保全のため、FSC®認証紙と植物油インキを使用して印刷しています。

